

# 体温計

特集

## 乳がん手術の最前線



乳がん治療のいま

『がんを治す × 美しさを守る』



地方独立行政法人

静岡市立静岡病院

SHIZUOKA CITY SHIZUOKA HOSPITAL

# 「がんを治す」と「美しさを守る」を両立するために

## 乳腺外科医2人に聞く3つの手術法

近年、乳がんは日本の女性では最もかかりやすいがんとなり、年間約9万人以上が乳がんにかかります。乳がんの診断を受けたとき、多くの女性が抱えるのが「しっかり治したい。でも、できるだけ今の自分の姿も大切にしたい…」という気持ち。当院ではそんな思いに寄り添えるように、“乳房の整容性”を重視した手術を積極的に行っています。今回は、乳腺外科医の米沢医師と矢崎医師の2人に話を聞きながら、3つの代表的な手術法をご紹介します。

### 01 身体への負担が少なく、自然な乳房を残しやすい ラジオ波焼灼療法（RFA）

米沢医師

RFAは、腫瘍に細い針（電極）を刺し、ラジオ波という高周波エネルギーを流して、がん細胞を熱で焼いて壊す「切らない手術法」で、新しい治療選択肢となります。傷がほとんど残らず、乳房の形がほとんど変わりません。体への負担を抑えつつがんを治したい方に向けた治療ですね。

—どんな人がRFAの対象になりますか？

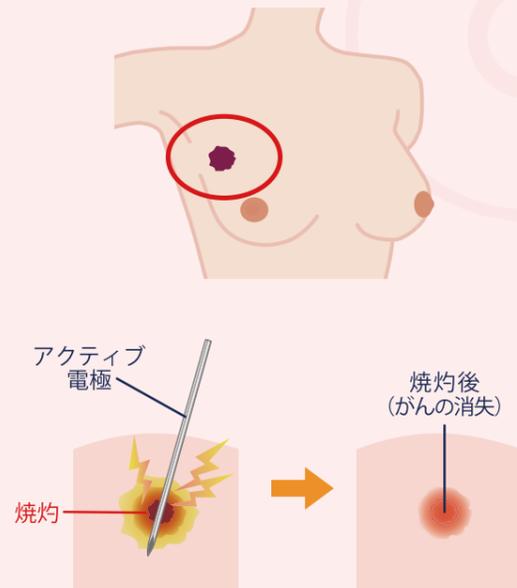
米沢医師

すべての乳がんが対象というわけではありません。一般的には、“1.5cm以内の腫瘍”“がんが一箇所にとどまっているもの”“転移がないこと”など、いくつかの条件を満たしている必要があります。「適応の範囲を守ること」がとても大切なので、画像検査などで慎重に判断します。

—根治性（がんを治す力）はどうですか？

米沢医師

静岡県内では当院を含め4施設が、日本乳がん学会から「患者さんが安心して治療を受けられる、経験のある医師と治療にかかる体制が整った施設」として、乳がんのラジオ波焼灼療法の実施医療機関の認証を受けています。（2025年11月4日現在）  
当院では2025年9月までに4例を施行し良好な手術成績を収めています。RFAは、適応をきちんと守れば、手術と比較しても遜色ない成績が得られています。



### 02 取りながら、同時に“形を整える” 乳房部分切除（Bp） ＋スーチャースキャホールド法（SST）

矢崎医師

Bpは、がんの部分だけを切除して乳房を残す方法です。ただ、取り方によっては“へこみ”が目立つことや、左右乳房の非対称が生じたり大きな皮膚切開を伴う等の欠点がありました。  
SSTは、切除した後の空いたスペースに対して、将来的な“へこみ”ができにくいように縫合の工夫を加える手技です。乳房内部で“支え(scaffold)”を作るように縫い合わせることで、自然な丸みや滑らかなラインを保ちやすくなります。わかりやすく言うと、「がんを取るだけでなく、同時に胸の形を整える」発想です。

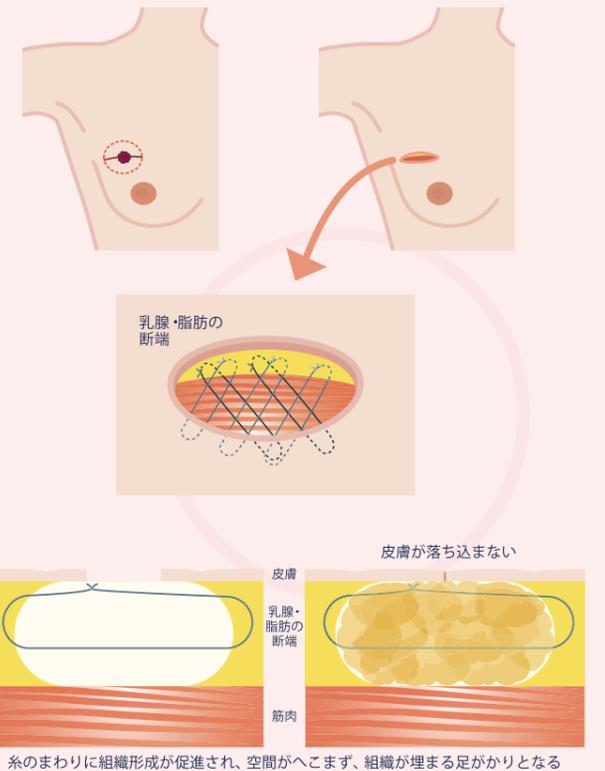
—SSTを併用すると、見た目はどのくらい変わるのでしょ？

矢崎医師

個人差はありますが、SSTを行うことで“へこみが出にくい”“左右差が目立ちにくい”“服を着たときのラインが自然になる”といった効果が期待できます。

大がかりな再建をしなくても、比較的自然的な胸の形で治療を終えられる可能性が高いのが大きなメリットですね。

当院では部分切除術(Bp)のほぼ全例でこのSSTを行っており、良好な成果を得ています。



矢崎医師

診断を受けた直後は、不安で胸がいっぱいになるかもしれません。でも、現代の乳がん治療は、手術・薬物療法・（症例により）放射線療法による集学的治療により高い治療効果を得ています。（転移・再発症例では薬物療法が主体になります。）最も納得できる治療を選んでいきますよう、どんな小さな疑問や心配も、遠慮なくお伝えください。

米沢医師

治療法は“正解”がひとつではありません。安心できる道と一緒に探るのが私たちの役目です。病状、生活、価値観に合わせた治療と一緒に考えていきましょう。

“自分らしさ”  
を守りながら  
治す時代へ

休日は家族から誕生日プレゼントでもらったYogiboでお昼寝するのが日課です。たまにそのまま朝を迎えてしまうことも…

冬の楽しみは家族で行くスキー旅行です。普段は辛いものが大好きなので激辛料理を食べに行ったり、家で作ったりしてます。



外科・消化器外科 科長  
**米沢 圭 医師**

日本乳癌学会乳腺指導医・専門医・評議員、  
乳房再建エキスパンダー／インプラント基準責任医師、  
日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医



外科・消化器外科 医長  
ゲノム医療センター副センター長  
**矢崎 真澄 医師**

日本外科学会外科専門医、  
乳房再建エキスパンダー／インプラント実施医師、  
日本消化器外科学会、消化器外科専門医

03

治療の確実性と、見た目の自然さを両立できる選択肢

乳頭乳輪温存乳房全切除術(NSM)  
+ 乳房再建(形成外科)

米沢医師

NSMは、乳房の皮膚と乳頭・乳輪を残しながら、中にある乳腺組織を取り除く手術です。乳頭・乳輪が残ることで、形が自然で心理的な負担が軽くなるメリットがあります。「乳房の形を保ちながら、がんの治療もしっかり行いたい」という希望に応えられる手術だと思います。乳頭乳輪に近接していない乳がんが適応となります。

——乳房再建はどのように行われるのですか？

矢崎医師

再建は形成外科と協力して行います。主に2つの方法があります。人工物(約半年後インプラントへ入れ替え)や自家組織(お腹や背中筋皮弁)で乳房のふくらみを再建します。どちらも、乳頭乳輪が残ることで最終的な印象がかなり自然になります。形成外科医と相談しながら、“自分に合う胸の形”を一緒に作っていきます。



矢崎真澄医師が乳がん診療全般について解説しています。ぜひご参照ください。

topics

令和8年1月1日から  
新たに「呼吸器センター」  
を開設しました。

内科と外科のよりスムーズな連携を目指します。



3 病院合同市民公開講座  
(静岡病院・日赤病院・厚生病院)

「おまち」  
から  
発信!

静岡 3 病院が語る  
健康と医療

令和8年

5/23 (土)

14:00~16:00(13:30開場)

会場 札の辻クロスホール

お申し込み方法、詳細は病院HP・LINE・チラシ等でお知らせします。

市民健診  
センター

人間ドック | 脳ドック | 健康診断 | レディース検診

予約制 / 当日結果説明 ※検査項目により当日結果説明不可場合があります。

受付

月～金 10:30～16:00

※ 祝日、年末年始を除く

ご予約・お問い合わせ

市民健診センター 054-253-3125 (内線 5350)

外来受診  
ご案内

受付時間 | 午前 8:00～午前 11:30

休診日 | 土・日曜日、祝日、年末年始

※一部、受付曜日や時間が異なる診療科があります。  
※担当医は都合により変更することがあります。

急病時  
連絡先

24 時間受け付けています

救急外来: 054-253-3125 (代表)

心臓救急: 054-252-4399



地方独立行政法人  
静岡市立静岡病院  
SHIZUOKA CITY SHIZUOKA HOSPITAL

〒420-8630 静岡市葵区追手町 10 番 93 号  
TEL 054-253-3125 / FAX 054-252-0010  
URL <https://www.shizuokahospital.jp/>



静岡市立静岡病院広報 体温計 第165号  
令和8年2月(季刊発行)  
発行: 地方独立行政法人静岡市立静岡病院  
広報委員会(総務課 総務・企画係内)